

第 1457 回 (3 月 27 日)

豚肉の市場構造とヘッジニーズ

(食品需給研究センター)

木 立 真 直

1980 年代以降、豚肉消費の頭打ち、輸入の急増などによる価格水準そのものの低迷や価格の乱高下という問題がある。その解決方法のひとつとして豚肉の先物取引導入が注目されている。

本研究では、この先物取引導入の条件を検討するという意味から、① 豚肉の商品適格性を検討するために豚肉の需給と流通および価格形成の特徴を明らかにする ② 生産者、豚肉流通業者、食品加工メーカーに対し豚肉の先物取引に関する意向を調査する ③ 現段階における豚肉先物取引導入の可能性と具体的市場設計プランについて検討する ④ 今後導入を進める上での問題点と課題を明らかにする、ことを課題とした。結論的要約は以下のとおり。

① 枝肉と部分肉セットを想定した場合の商品適格性は表のとおりである。

② 東京地方にみる価格変動の拡大は、一般的にヘッジニーズが生じる背景である。供給不足期に不安定化が指摘でき、生産者等当業者においてより強いヘッジニーズが生じていると考えられる。

③ 地域的な価格形成の平準化は現物市場における空間的な価格形成の合理化とみられ、また、市場における買受けの集中化はみられず、市場の構造は競争的である。これらは今後先物市場を整備する基礎的条件を提供している。

④ 現在、流通の主体が冷蔵肉であることから、部分肉価格は枝肉価格に連動している。将来的には豚肉輸入の拡大により部分肉市場の重要性は高まるであろう。

⑤ 先物取引の導入について肉豚生産者の場合、「必要である」が 24.4%、「必要ない」が 3.3%、「わからない」が 72.2% であった。

別途行った鶏卵生産者に対するアンケート調査の結果と比較すると、肉豚生産者の場合、豚肉の先物取引そのものを十分に承知しておらず、その結果、「わからない」との回答率がきわめて高かったものと考えられる。

⑥ 加工メーカー、量販店等のヘッジニーズの解明、アメリカにおける肉豚・豚肉の先物取引の利用実態の解明、は残された課題である。

(文責・小林弘明)

表 枝肉、部分肉の商品適格性

	枝 肉	部分肉セット
大量性	約 3,000 億円 将来減少傾向	約 5,000 億円 将来増加傾向
規格・格付	格付率約 50%	約 5%
価格変動	0.138	ほぼ同様
価格の指標性	高い	低い